

RAW264 細胞 NO 産生誘導・抑制試験

免疫系や、動脈硬化に関わる研究などにおいて、マウスマクロファージ様細胞株 RAW264 がマクロファージの細胞モデルとして広く用いられております。マクロファージ活性化の指標として NO 産生誘導作用を、またリポ多糖(LPS)刺激下の NO 産生に対する抑制作用を NO₂ イオンとしてそれぞれ測定し、NO 産生に対する作用を調べます。

試験方法

LPS 刺激により過剰産生した NO₂ 産生量を比較対照とし、これに対する LPS 未刺激条件下での試験液添加時の NO₂ 産生量から NO 産生率を求め、NO 産生を誘導する作用を調べます。また、LPS 刺激により過剰産生した NO 量を比較対照とし、これに対する LPS 刺激条件下での試験液添加時の NO 産生量から NO 産生率を求め、NO 産生を抑制する作用を調べます。

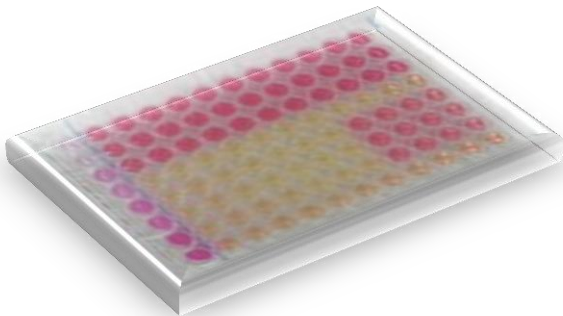


図-1 発色後のプレート

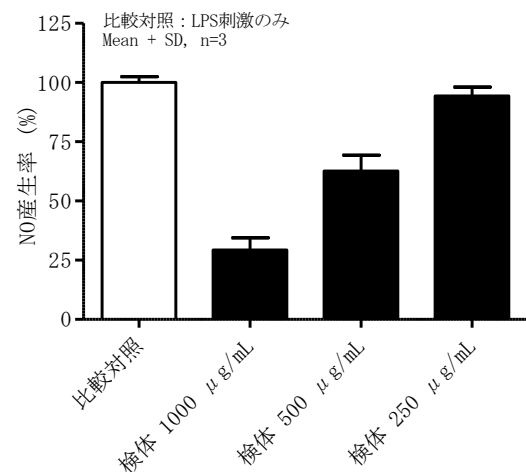


図-2 試験結果例(NO 抑制)

検体必要量

必要量：約 10 g (10 g 未満の場合はお問い合わせください。)

注意点

水に不溶の検体は試験をお受け出来ない場合がございます。また、いずれも検体数や検体の性状などにより変動致しますので、まずはお問い合わせください。

試験設計など、詳細につきましてもお気軽にご相談ください。